

校是：師弟同行

校訓：学徳・進取・雄飛

教育目標	生徒一人一人の個性の伸長に努め、これからの時代に求められる優れた知性と道徳心を培い、創造性・国際性・協働性に富む人間性を育むとともに、郷土の自然と文化に誇りを持ち、主体的な生涯学習者としての資質を育成する。
-------------	---

本校の社会的役割	1 地域の拠点校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創造する意欲を持った生徒の育成：【やいまを識り、やいまを守り、やいまを継ぐ】教育活動を実践し社会に貢献できる生徒の育成 2 主体的な生涯学習者として志のある自己実現を果たす生徒の育成
-----------------	---

めざす学校像	めざす生徒像	めざす教師像
1 生徒が安心して明るく生き生きと活動する学校	1 時代の変化に対応できる確かな学力と豊かな人間性を備えた知・徳・体の調和の取れた生徒[学徳]	1 自己研鑽に努め、生徒の個性や能力を伸ばし、生徒の心に灯をともし教職員
2 教職員が教育活動にやり甲斐を感じる学校	2 何事も自主的・主体的に取り組むとともに、協働精神に富み創造性豊かな生徒[進取]	2 保護者や地域社会との連携・協働、教職員間の連携・協働を意識的に取り組む教職員
3 保護者や地域社会の期待に応える学校	3 郷土を愛し、社会発展に貢献するよう自己実現を目指す生徒[雄飛]	3 本校の課題や諸問題に対し、組織的・継続的な取り組みをする教職員

()内は人数

No	努力目標(Plan)	状況(Do)※ ()内は昨年度	R5目標値	◎成果・▲課題(Check)	進捗状況	改善(Action)	関係者評価
1 進路指導の充実	① キャリア教育を推進し、主体的に進路を選択する力を育成して、生徒一人一人の志ある自己実現を図る。	進路講話及び探究活動等を通じたキャリア教育の推進	実施	◎「総合的な探究の時間」発表会の実施 ◎少数希望者科目の課外講座の実施 ▲一人ひとりに応じた学習指導の工夫・改善	B	◆キャリア教育や進路指導方針の更なる共有及び連携 ◆個別最適な学びへの取組 ◆早期の進路決定への取組充実	A(2) B(3)
		一人ひとりに応じた学習内容と学習指導	実施				
	② 3年間を通じた計画的・組織的な進路支援・面談等に努め、進路決定率の向上を図る。	学期に1回以上の進路面談	実施	◎担任による三者面談や二者面談の実施 ◎進路指導部による進路面談の実施 ◎進路決定率 ▲早期の進路決定	B	◆進路相談がしやすい環境整備 ◆進路に関する情報提供の在り方検討 ◆個々に応じた進路実現に向けた更なる支援	A(2) B(3)
	進路決定率86.2%		90%以上				
	③ 諸書類の提出期限を厳守させ、講話等により、社会人・職業人として自律する心構えを養う。	進路講話等の推進	実施	◎外部と連携した進路企画講話の実施及び教育フォーラムの実施	A	◆自分事として捉える力の育成	A(4) B(1)

No	努力目標(Plan)	状況(Do)※ ()内は昨年度	R5目標値	◎成果・▲課題(Check)	進捗状況	改善(Action)	
2 生徒指導の充実	① 生徒委員会活動の活性化させ、情報端末の利用マナーや自転車乗車の交通ルール・マナーの向上を図る。	預かり指導20件(30件)	15件	▲情報端末利用マナーの入学年度時の徹底 ▲自転車危険運転に対する取組	B	◆自転車の逆走やスマホ操作など危険運転に対する生徒主体の取組支援 ◆情報端末のマナー向上への取組強化	A(2) B(3)
		自転車接触事故7件(3件)	0件				
	② 手帳等の活用で生徒の自己管理能力を育成し、勤怠状況の改善と高校生としての基本的な生活習慣の確立を図る。	出席率95.9%(97.3%)	99%以上	◎教職員、SC、就学継続支援員等との連携により長期欠席者等への丁寧な対応 ▲勤怠面の改善	D	◆生徒主体により「時刻を守る、時間を大切にする」取組の支援	B(4) C(1)
		SHR遅刻延べ数958(1105)	750以下				
	③ 部活動の意義と教育課程との関連に留意し、適切な活動・運営に努める。	部活動加入率74.3%(67.3%)	80%以上	◎以前のコロナ禍より加入率が上昇	B	◆部活動と教職員の働き方改革の推進との両立 ◆部活動に係る活動方針の改定	A(3) B(2)
		部活動の適切な活動と運営	実施	◎毎月第3・5日曜日の部活動停止 ▲部活動の適切な活動時間の取組			
九州/全国大会出場		全国大会出場	男女ソフトテニス部、陸上部、ダンス部、カラーガード部				
3 魅力ある教育活動	① 教育課程に基づく教育活動の質を向上させるとともに、学習効果を最大とするカリキュラム・マネジメントを推進する。	職員研修の実施(8回)	5回以上	◎進路研修会(2回)、ICT研修会(6回)等実施	B	◆生徒たちの主体性や深い学びを実現するための教育課程及び教育活動の実現	A(2) B(3)
		授業改善研究の推進	研究授業及び研究報告	◎校内研究授業及び授業研究会の企画実施 ◎経年研修に伴う研究授業の実施			
	② 学校評議員制度や学校評価を活用したPDCAサイクルを機能させ、学校経営及び教育活動の改善を図る。	評議員会年3回の実施	実施	▲学校評議員会における意見や学校アンケートを活用した学校経営及び教育活動の改善	B	◆学校経営及び教育活動のPDCAサイクルの確立	A(1) B(4)
		授業観察及び学校アンケートの実施					
	③ 地域の歴史と文化の理解を図り、その継承発展に資する教育活動を推進する。	地域行事への積極的な参加	実施	◎地域行事への参加生徒の出席扱い ◎地域人材を招聘しての講話	B	◆教科横断的な地域教育資源の活用 ◆「若鷺ゼミ」における取組の充実	A(2) B(3)
		生徒探究活動の推進	実施	◎「若鷺ゼミ」における地域課題への探究活動の取組			
4 教職員の資質・能力の向上	① 『問い』を軸にした学ぶ喜びのある授業改善に取り組む。	成績不振者6名(8名)	15名以内	▲成績不振者への学習指導の工夫・改善	A	◆個別最適な学びへの取組 ◆深い学びに向けた取組	A(5)
		成績上位者247名(167名)	240名以上	◎ペアーやグループ活動等を通して、生徒の学びを高める学習指導の充実 ◎授業や課題などについて、わかりやすく丁寧な学習指導の充実			
	② OJTの視点に立った普段からの自己研鑽と先進校視察への積極的な教職員派遣を行う。	教科内研修及び自己研鑽の推進	実施	◎校内研究授業及び授業研究会の企画実施	C	◆観点別学習状況の評価方法の改善	A(1) B(4)
		先進校視察(1名)	実施	◎授業改善推進事業における先進校視察			
	③ 教育の実践「図南の翼」を発刊する。	研修・研究の推進	実施	◎ICT研修や経年研修等に伴う研究授業の実施	A	◆教育研究の共有と教育活動への活用推進	A(3) B(2)
		図南翼19集の発刊	発刊	◎一年間の教育研究をまとめた図南翼を発刊			

No	努力目標(Plan)	状況(Do)※ ()内は昨年度	R5目標値	◎成果・▲課題(Check)	進捗状況	改善(Action)	関係者評価
5 教育環境と事務の管理運営	① 危機管理体制の点検と周知、定期的な教育環境の点検・整備を図る。	防災訓練及び教育環境の点検実施	実施	◎津波・火災避難訓練の実施 ▲防災(津波・火災)訓練を通して、防災マニュアルの改善及び危機対応の点検など計画的な実施	A	◆生徒の危険予測・危機回避能力の育成及び教職員の危機管理能力の更なる向上 ◆危機管理マニュアルの刷新	A(4) B(1)
		定期的な安全点検	実施	◎安全点検項目の改善			
		学校施設の改修	実施	◎理科棟・管理棟の外壁工事の実施			
	② 学校図書館の充実、学校施設・設備とICT環境の整備など教育環境の整備・充実を図る。	学校図書館の充実	整備	◎新刊図書の実数(購入数491冊、寄贈図書数70冊) ◎行事に応じた特設コーナーの設置	A	◆ICT環境の更なる充実 ◆視聴覚教室における視聴覚機器の整備	A(4) B(1)
		ICT環境整備等	整備	特別教室Wi-Fi環境整備や電子黒板等機器の追加整備			
	③ 事務処理の迅速かつ的確化を図り、私費会計の適正化、学校勤務管理システムの適切な運用を推進する。	適正なシステム運用の更なる推進	適正運用	◎私費会計の適正な実施 ▲出退勤の当日記録 ▲超過在校時間職員数の削減	A	◆月80時間以上の超過在校時間勤務者への産業医面談の実施 ◆	A(4) B(1)
6 開かれた学校づくり	① 学校の教育情報を適切に発信し、PTA・同窓会(尚志会)及び他団体との連携を深め、保護者・地域に信頼される学校をめざす。	地域懇談会・レク大会 教育フォーラム	実施	◎地域懇談会を通じた教育環境の改善 ◎キャリア発達を促す教育フォーラムの実施 ◎スクリレの導入により保護者への適切な情報発信 ◎PTA親睦レクの実施	A	◆進路情報の発信の在り方 ◆学校ホームページのリニューアル ◆学寮情報の適切な情報発信 ◆「不祥事ゼロ」継続への取組	A(5)
		八高P連及び先島振興会との連携	実施	◎合同研修会「18歳成人」についての学習 ◎先島振興会との連携と課題の共有			
	② 盛岡第四高校との姉妹校交流事業を推進する。米国交流事業の実施について検討する。	交流会実施	実施	◎盛岡第四高校との対面交流の再開 ▲派遣費の補助	A	◆派遣生徒への負担軽減を含めた補助の在り方検討 ◆外部機関からの国際交流に関する情報周知の在り方検討	A(5)
		国際交流活動再開への取組	企画	◎カケハシ米国交流への生徒派遣及び米国生徒受入 ▲交流情報の周知徹底			
	③ 将来の地域を支える人材の育成を図るために、関係機関との取組を強化する。	地域教育資源の活用、地域活動の推進	実施	◎各教科にて地域人材の活用及び地域行事への参加	A	◆教科横断的な地域教育資源の活用	A(5)

※ 学校関係者評価基準 A:達成できている B:概ね達成できている C:あまり達成できていない D:達成できていない

※ 進捗状況基準 A:順調(90%以上) B:概ね順調(75%以上~90%未満) C:やや遅れ(60%以上~75%未満) D:大幅遅れ(60%未満) E:未着手